（別紙３）

公表　児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ワンスタット海老江			
○保護者評価実施期間	2025年　2月　17日	～	2025年　3月　20日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	18名	（回答者数）	13名
○従業者評価実施期間	2025年　2月　17日	～	2025年　3月　14日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5名	（回答者数）	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　3月　25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別活動ができる部屋があることで、一人ひとりのニーズに合わせた運動が提供できるのと同時に、集団活動で困りごとが発生した際に、個別教室に移動し、気持ちの聞き取りなど、落ち着いた環境の中で、気持ちの切り替えをサポートすることができる。	・個別でニーズを聞き取り、運動種目や取り組む内容に合わせた環境設定を行う。 ・気持ちが落ち着くまで、個別でサポートできる環境を設定する。	・個別での取り組みの中で、保護者への情報共有をさらに密にし、保護者に対してもよりサポートができる体制を作る。
2	・運動の時間を保護者の方に見てもらうことで、「できた！」という経験を、保護者の方と一緒に積み上げることができる。 ・家族へのサポート体制の充実	・一つの運動動作を習得するために、様々な角度からアプローチを行う。 ・定期的に補助の方法など、指導員間でミーティングを行い、より良い方法を取り入れている。 ・相談があった際は、別で時間を設け、メールや電話で聞き取りを行うようにしている。	・取り組みの様子を撮影し、修正部分や課題を見える化させながらより細かい情報共有を進める。 ・動作を習得するための方法について、指導員間で意見交換を行い、よりレベルが高い指導技術の習得を目指す。
3	・就学に向けて、学校体育の取り組みを実施。 ・様々な運動教室の実施。	・地域の習い事に近いスクールを実施 ・事業所間での交流を交えて、いろんな友だちと活動ができるように取り組んでいる	・事業所間で交流する機会をより増やす。 ・いろんな友だちと交流できる機会を増やす。 ・保護者や利用児に希望を聞き取り、いろんな取り組みを増やす。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スタッフ間の情報共有の強化	部屋が2階と1階に分かれている。	情報発信の方法を工夫するなど、数分でもコミュニケーションが取れる時間を確保し、情報の交換がスムーズに行えるように取り組む。
2	保護者間の交流する機会を増やす。	時間単位で利用児が入れ替わるので、交流する時間の確保が難しい。	長期休みや日曜日を利用し、保護者参加型のイベントを実施する。
3	トイレの移動に時間がかかる。 服やカバンなどの置く場所が少ない。	運動器具が多い。	・稼働率が高い運動器具を部屋に残し、荷物を置く場所を確保する。 ・運動開始前にトイレの確認を行う。